

めざす児童生徒像

- 「自主・自律・活力ある丸中生徒」
・主体的に学習や活動に取り組む生徒
・自らを律し、他と協調し、心を通わせることができる生徒
・進取の気性に富み、たくましく生きる心身を持った生徒
- <自主>
<自律>
<活力>

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

				中間				年度末				達成状況の分析	改善策
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
（学校重点項目）	授業改革	①、②の教員の割合が 85％	① 生徒が主体的に学びたくるような授業改革に取り組んでいる。	100%				100%				①②については、前回同様ほとんどが意識して取り組んでいる。 ・教え合いの活動を適宜行い、生徒同士をつなぐことができた。 ・ICTを活用し、生徒が興味関心を持ちやすいような工夫ができた。 ・研修会の成果もあり、積極的にICTを活用する授業が増えた。	・発表やグループ活動が形だけになってしまわないように、つけたい力と目的を明確にし、活動させていく必要がある。 ③については、意識が高まってきているので、今後は効果的な活用について、教科の特性を加味し、さらに研修、実践を積む。
			② 学びのルールに基づき、「聴く」「話す」姿勢を定着させる場を設定している。	95%				95%					
			③ ICTを効果的に活用し、主体的に自己表現できる場を設定している。	40%				68%					
			集計										

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目									達成状況の分析	改善策
重点項目	業務の働き方や改善	①、②の割合が１００％ ③の割合が９０％	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	45%				68%				・勤務時間内に、業務の優先順位を考えながら計画的に仕事をすることができた。 ・勤務時間内に仕事を終えられず、80時間を超えた教職員が若干名見られる。 ・まだまだ仕事量に差があり、偏りがみられる。	・先を見通しながら、計画的に仕事が行えるように、業務の締め切りなどを可視化する。 ・会議が長引いて、勤務時間を超えないように、事前に文書提案し、確認したのち、会議に臨めるようにする。 ・時間外勤務の削減のために、業務の平準化に努めるとともに、協働意識を高める。
			② 職員室の環境改善や文書管理の整理がなされている。	50%				74%					
			③ 校務分掌や業務の平準化がなされている。	30%				42%					

目標			項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
						教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	③の教員の割合が年度末に90%	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	85%					100%			・研究授業の検討会を通して、自分の授業を客観的にみることができた。 ・昨年度に引き続き、星槎学園中高等部北斗校の稲葉茂先生からご指導をいただいたり、研究授業をもとに生徒を見取り、その内容を授業整理会で反映させたりしたことで、高い数値につながっている。	・生徒の学びがより深まるような課題の設定を意識する。 ・単元の見通しや聴く力を身に着けるための取り組みなど「書いただけ」「やりっぱなし」にならないよう注意が必要である。 ・①②③について、次年度以降も同様に続けていく。
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100%					100%				
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	85%				95%					
		集計													
		授業	①、②、⑤の生徒の割合が前期80%、後期90%	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	70.0%	86.0%		-16	89.0%	89.3%		0.003	②⑤については、目標指標の90%を上回る結果となった。（①も89.3%とほぼ90%と概ね目標を達成できた） 学校研究の主題にもある「聴いて反応し主体的に表現できる生徒」の育成を目指し、以下の3点を意識して授業を行った。 ・授業において教師と生徒の一对一のやりとりではなく、生徒同士の関わり合いを増やすこと。 ・教師が聴く姿勢を持つことを意識すること。 ・教師が生徒の気づきや考えを持つことを大切にしながら授業を行うこと。 生徒の様子としては、授業中は自分自身と向き合い、わからないところをそのままにせずに、わからないと発言したり、近くの席の友達と考えを共有したりするような雰囲気の中で授業を行っていた。 ・聴いて反応する姿勢には課題がある。 ⑥については、全教科で振り返りシートの取組を行っていることで、習慣化され、生徒が学びを実感できるようになった。	・教師が聴く姿勢を持つことを大切にし、脱SOS（しゃべりすぎ・おしえすぎ・しじしすぎ）を心掛ける。 ・同一教科、同学年などで指導の仕方に差がでないよう、教科部会を定期的に開催し、連携をとりながら授業づくりを行っていく。 ・全教職員が一丸となって、生徒たちのために授業改革にベクトルをあわせて取り組んでいく。そのため、研究内容について一人一人がしっかりと内容を把握し、実践に努めていく。 ・教員側のコーディネート次第で子どもたちの力はまだまだ伸びていくと思う。 ・上手く伝わるよう話の組み立て方にも工夫させるような取り組みを考えていきたい。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	80.0%	88.7%		-8.7	100%	92.5%		-0.075		
				③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	80.0%	82.6%		-2.6	79%	82.9%		0.039		
	④			（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	75.0%	87.3%		-12.3	89%	87.2%		-0.018			
	⑤			児童生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて（聞いて）、自分の考えを持つことができている。	85.0%	90.1%		-5.1	95%	91.1%		-0.039			
	⑥			児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	85.0%	88.7%		-3.7	79%	92.2%		0.132			
	集計														
	学力の定着	学力調査	①の割合が中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	75.0%				84.0%				・学力の重点目標や具体的な取組について職員会議や校内研修等で確認を行った。夏休みから2学期以降にかけて、学力調査の分析などを計画的に行うことができたので、①の割合については9ポイント増加している。ただし、目標指標を達成することができなかった。 ・学校力向上ロードマップの確認については夏休み中や2学期末に検証を行い、運営推進委員会や職員会議などで全教職員で確認を行うことができたので、②については14ポイント増加した。 ・近隣等との小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題の共有については、小中連携会を設けて旧6年担任と1年学壇で学力についての課題を共有したのみにとどまっている。	・分析結果から明確になった課題を克服するために学校全体として具体的にどのような取組を行うか、校内研修会や教科部会等を通じて方向性を示す必要がある。 ・学校力向上ロードマップについては、主任層を中心に定期的な検証を行うことができた。次年度も年度当初に提案し、学期ごとの検証をしっかり行っていきたい（PDCAサイクル） ・学力調査の分析を近隣小学校と検証できる場面を設定する（各学校の教務・研究を中心に）
				②	学校力ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	65.0%				79.0%					
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	35.0%				37.0%					
		集計													
		家庭学習	①の生徒の割合が中間・・・70%以上 年度末・・・75%以上 ③の生徒の割合が中間・・・70%以上 年度末・・・75%以上	①	自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	50.0%	69.0%	56.3%	-19	68.0%	68.3%	60.5%	0.003	・①③について生徒の割合について、目標値を達成することはできなかった。教員の意識については①③ともに前期で向上しているものの、生徒の意識については改善が見られなかったことから、今後も継続的に教員側が働きかけを行っていく必要がある。なお、今年度の取り組みとして、学活の活用（学習オリエンテーション・計画表の作成の仕方について）や担任によるこまめなチェックを行った。また教員側からの学習への取り組みの提案や助言を適宜行ったり、学年リーダー会などが働きかけたりすることを行った。	・今年度以上に粘り強く取り組めるように学活や学年リーダー会の取り組みを効果的に活用していく必要がある。 ・学年や学級による差も見られるので、学校全体で習慣づけできる雰囲気作りの構築に努めたい。 ・家庭学習強化週間については今年度1回のみにとどまったので、次年度は学期に1回程度、設けられるようにしたい。
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	95.0%				89.0%					
	③			自学学習など、家庭学習の習慣が身についている	50.0%	73.7%		-23.7	63.0%						
集計															